

# 熊本県で開発した新技術

熊本県農業研究センター

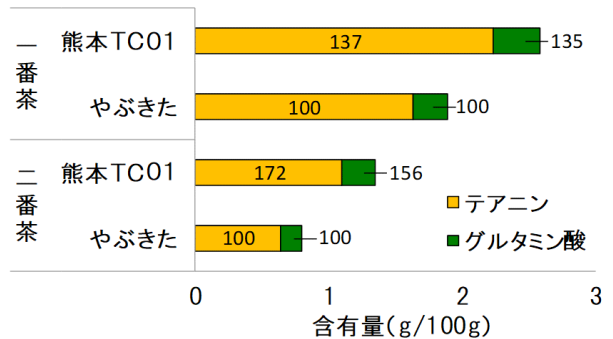
2021

## 茶新品種「熊本TC01」の特性



一番茶摘採期の「熊本TC01」

注：右の新芽写真の上段は「熊本TC01」、下段は「やぶきた」



荒茶中のテアニン及びグルタミン酸含有量

注：一番茶は2018年～2020年平均、二番茶は2020年の値  
(茶期別・成分別に「やぶきた」を100とした対比を記載)

### 問 研究のねらいは？

答 全国的な茶価の低迷が続く中、稼げる茶づくりに対応した「くまもと茶ブランド」を確立するために、希少な「蒸し製玉緑茶」で競合他県と差別化できる県オリジナル品種の開発が必要となっています。そこで、県内の現地茶園から有望な在来系統を採取・選抜する手法により、荒茶品質が優れる蒸し製玉緑茶向け県オリジナル品種の育成に取り組みました。

### 問 新品種候補の主な特性は？

答 選抜した「熊本TC01」について、主力品種「やぶきた」と比較したところ、次のような特性を有することが明らかになりました。

- ① 一番茶の萌芽期や摘採期は「やぶきた」とほぼ同時期であり、芽重型※の傾向を示します。また、「やぶきた」よりも3割程度多収です。

※新芽が大きく重い傾向がある茶樹

- ② 新芽の葉緑素値は「やぶきた」よりも高く、濃緑の新芽が得られます。
- ③ 荒茶品質のうち、特に水色や滋味が「やぶきた」よりも優れ、またテアニンやグルタミン酸が「やぶきた」よりも3割以上多く含まれます。

### 問 栽培または普及するうえで注意する点は？

答 ① 当成果は、定植後13～15年目(2018年～2020年)の株を使用した試験で得られた結果です。

- ② 高品質な蒸し製玉緑茶の生産に取り組む県内全域の茶園において、新植または「やぶきた」からの改植に有望な品種として普及を図ります。
- ③ 一番茶の芽数不足を避けるため、夏秋期の整枝を徹底し、適正芽数の確保に努めてください。